令和7年度第2回 感染症発生動向調査協議会

令和7年5月21日

月番：加藤 達雄

和泉 孝治

1 前月の感染症発生動向について（2025年第14週～17週・4月）

<全数把握対象疾患>

- ・結核は、結核患者は11名、潜在性結核感染症は11例の計22名報告されている。20才以上の各年代から発生しており、半数が60歳未満であった。本年累計で、潜在性結核感染症は対前年比132.1%と増加している。
- ・4類では、つつが虫病が1例、デング熱が1例、レジオネラ症が4例報告された。
- ・5類では、侵襲性肺炎球菌感染症が3例（小児1例、高齢者2例）報告された。水痘（入院例）は2例の報告があり、本年累計は6例で、対前年比600%と増加している。百日咳は、95例と多くの報告があり、10～14才が43例と最多であったが、40～49才も11例の報告があり、成人例の報告も増加している。

(STI)

- ・梅毒は11例（早期顕症8例、無症候3例）の報告があり、女性は20歳代の若年者が多く、男性は40歳代以上の中高年が多かった。本年累計では、対前年度151.2%と増加している。

<定点把握対象疾患>

- ・新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症の定点あたりの報告数は減少傾向にある。
- ・急性呼吸器感染症は、15週から集計が開始された、東濃地方の定点あたりの報告数がやや少ないが、各圏域より定点当たり40程度の報告がされている。
- ・感染性胃腸炎の報告数が、15週以降増加している。
- ・水痘、伝染性紅斑は、(定点の変更あり、直接比較はできないが)、対前月、対前年で増加している。同時期の全国の定点当たり報告数よりは低めと思われる。

2 検討すべき課題

〈事務局から〉第15週以降の定点変更後のデータについて（ARI、その他）【別紙1】

3 情報提供すべき事項

- ・入国前結核スクリーニングは、準備の整った3か国（フィリピン、ネパール、ベトナム）から開始することとなった（インドネシア、ミャンマー、中国は準備中）。【別紙2】

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・特になし

<検討結果>